

第2学年

令和2年度

シラバス

赤門鍼灸柔整専門学校

鍼灸科第二部

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	國分 俊繁	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	臨床医学各論 I	曜日・時間	月曜日 17:40～

【授業概要・目標】

各疾患についての疫学、成因、症状などを学習する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	感染症Ⅰ
2	感染症Ⅱ
3	感染症Ⅲ
4	消化器疾患Ⅰ
5	消化器疾患Ⅱ
6	消化器疾患Ⅲ
7	消化器疾患Ⅳ
8	肝・胆・膵疾患Ⅰ
9	肝・胆・膵疾患Ⅱ
10	肝・胆・膵疾患Ⅲ
11	呼吸器疾患Ⅰ
12	呼吸器疾患Ⅱ
13	呼吸器疾患Ⅲ
14	前期復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	腎・泌尿器疾患Ⅰ
2	腎・泌尿器疾患Ⅱ
3	腎・泌尿器疾患Ⅲ
4	内分泌疾患Ⅰ
5	内分泌疾患Ⅱ
6	代謝・栄養疾患
7	循環器疾患Ⅰ
8	循環器疾患Ⅱ
9	循環器疾患Ⅲ
10	循環器疾患Ⅳ
11	血液・造血疾患Ⅰ
12	血液・造血疾患Ⅱ
13	血液・造血疾患Ⅲ
14	後期復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験
授業の進め方	板書・配布資料
注意 (学生に望むこと)	身体の構造と機能をもとに疾患の理解を深める
テキスト・参考書	テキスト:臨床医学各論 参考書:病気がみえる

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	山田 秀一郎	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	鍼灸応用実技Ⅱ	曜日・時間	月曜日 19:15～

【授業概要・目標】

実技を中心とした授業。治療目的を構成するための基本を身につける。応用できるようにする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	1年時の実技基本の確認。
2	経絡の概念等について
3	選穴、実技における過誤の処置、捻鍼法の説明
4	選穴、選穴を中心とした取穴、刺鍼(捻鍼)
5	選穴、選穴を中心とした取穴、刺鍼(捻鍼)
6	配穴説明、配穴中心の取穴、刺鍼
7	配穴説明、配穴中心の取穴、刺鍼
8	配穴説明、配穴中心の取穴、刺鍼
9	補瀉説明と実技
10	補瀉の実技
11	総復習
12	総復習
13	前期実技試験
14	前期復習
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	五俞、五行穴について説明、取穴
2	五俞、五行穴の取穴、刺鍼
3	六十九難の説明
4	肺、脾虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
5	心、肝虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
6	心包、肝虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
7	肝、腎虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
8	腎、肺虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
9	大腸、胃虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
10	三焦、小腸、胆虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
11	膀胱、大腸虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
12	総復習
13	後期実技試験
14	後期復習
15	評価点検

評価方法	実技80%、平常点20%で評価
授業の進め方	毎回組む相手を替え、その日の課題に対して実技を行う。
注意 (学生に望むこと)	施術に対して真剣に取り組む。
テキスト・参考書	

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	吉本 豊	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	鍼灸応用実技Ⅲ	曜日・時間	火曜日 17:40～

【授業概要・目標】

臨床の現場に入ったときに即戦力となるための、臨床能力を身に付けることを目標とする。症例を通して患者様との接遇・コミュニケーション・症状などの情報を引き出す会話術と、検査法を通して解剖学的・神経学的異常を発見でき病名を導き出すため思考力・発想力を訓練する。共に、東洋医学として論理的に症を判断し・治療原則を考察し・根拠のある治療方法を導き出し、治療を行う。治療後、予後の説明と、日常生活上のアドバイスをすることが出来るようにする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション (授業内容説明など)
2	鍼灸実力・経穴実力テスト
3	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 頸部疾患
4	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 頸部疾患
5	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 上肢疾患
6	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 上肢疾患
7	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 背部疾患
8	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 背部疾患
9	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 腰部疾患
10	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 腰部疾患
11	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 下肢疾患
12	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 下肢疾患
13	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と
14	前期試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 目の疾患
2	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 耳の疾患
3	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 鼻の疾患
4	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 口の疾患
5	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 呼吸器の疾患
6	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 胃の疾患
7	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 小腸の疾患
8	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 大腸の疾患
9	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 腎臓の疾患
10	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 膀胱の疾患
11	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 子宮の疾患
12	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 心臓の疾患
13	鍼灸基礎技術訓練・治療理論構築と 施術 脳の疾患
14	後期試験
15	評価点検

評価方法	2年生レベルの十分な基礎技術を獲得できたか。基礎理論を使い治療方法を構築できたか？
授業の進め方	コーチングテクニックを用いて授業に望み、生徒の自主的な能力向上意欲の惹起に努める。
注意 (学生に望むこと)	自分で考え、発想し、決断し、修正できるように！！
テキスト・参考書	症例集より抜粋・編纂した資料

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	今野 弘務	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	東洋医学各論 I	曜日・時間	火曜日 19:15～

【授業概要・目標】	
1、身体の生理作用の知識をより深める	
2、病証、病因、病機の習得	
3、四診の習得	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	肝の病証(p81～84)胆の病証(p84) 肝と胆の相互関係(p85)
2	心の病証(p90～94)小腸の病証(p94～95) 心と小腸の相互関係(p95)
3	脾の病証(p100～102)胃の病証(p103～104) 脾と胃の相互関係(p105～106)
4	肺の病証(p110～113)大腸の病証(p114) 肺と大腸の相互関係(p114)
5	腎の病証(p120～123)膀胱の病証(p123～124) 腎と膀胱の相互関係(p124)
6	五臓の相互関係①(p127～142)
7	五臓の相互関係②(p127～142)
8	五臓の相互関係③(p127～142)
9	五臓の相互関係④(p127～142)
10	全身の気機①(p143～149)
11	経絡(p150～160)
12	病因病機①(p161～180)
13	病因病機②(p161～180)
14	病因病機③(p161～180)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	望診(望神など)(p201～212)
2	望診(舌診など)(p201～212)
3	聞診(p213～218)
4	問診(寒熱など)(p219～225)
5	問診(飲食、睡眠など) (p225～228)
6	問診(二便など)(p228～232)
7	問診(身体各部位の症状など) (p232～238)
8	問診(汗など)(p238～240)
9	問診(疼痛など)(p240～244)
10	問診(女性など)(p244～248)
11	切診(腹診、背診など)(p249～255)
12	切診(脈診など)(p255～267)
13	切診(脈診など)(p255～267)
14	「四診」のまとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	評価方法 評価は前期・後期試験の点数を基本とし、小テスト、平常点を加味して評価する。
授業の進め方	授業の進め方は、基本的に教科書通りとする。
注意 (学生に望むこと)	東洋医学は、馴染みのない理論、哲学のため、それを「信じる」「信じない」に関わらず、まずはその内容を理解するよう努めてほしい。
テキスト・参考書	東洋医学概論

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	三保 翔平	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	東洋療法診断法 I	曜日・時間	前期) 水曜日 17:40～ 後期) 水曜日 19:15～

【授業概要・目標】 東洋医学の施術において必要となる診断法の習得。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	鍼灸臨床の流れ
2	基本的な問診の仕方
3	腰痛の主要疾患
4	腰痛の問診
5	腰痛の診察法
6	坐骨神経痛の主要疾患
7	坐骨神経痛の問診
8	坐骨神経痛の診察法
9	膝関節痛の主要疾患
10	膝関節痛の問診
11	膝関節痛の診察法
12	頸肩四肢痛の主要疾患
13	頸肩四肢痛の問診
14	頸肩四肢痛の診察法
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	四診の概要、望診
2	舌診
3	聞診
4	問診(主訴の聴き方)
5	問診(寒熱)
6	問診(飲食・睡眠)
7	問診(飲食・睡眠)
8	問診(情志・生活環境)
9	問診(身体各部位の症状・汗)
10	問診(疼痛)
11	問診(女性・既往歴・家族歴・小児)
12	切診(反応・切経)
13	切診(腹診)
14	後期の復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の点数
授業の進め方	板書、パワーポイントの活用
注意 (学生に望むこと)	板書の記録
テキスト・参考書	前期: 問診・診察ハンドブック、後期: 東洋医学概論

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	伊東 太郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	病理学概論	曜日・時間	前期) 水曜日 19:15～ 後期) 水曜日 17:40～

【授業概要・目標】 ・他の医療従事者と共通認識が持てるよう基本的な病理学を習得する。 ・「生理学」と「疾病」の理解を深める。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	第1章 病理学とはどのような学問か
3	第2章 疾病についての基本的な考え方
4	第3章 病因 (1)
5	第3章 病因 (2)
6	第3章 病因 (3)
7	第3章 病因 (4)
8	第3章 病因 (5)
9	第4章 循環障害 (1)
10	第4章 循環障害 (2)
11	第4章 循環障害 (3)
12	第5章 退行性病変 (1)
13	第5章 退行性病変 (2)
14	前期学習内容の復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期内容の確認試験
2	第6章 進行性病変 (1)
3	第6章 進行性病変 (2)
4	第6章 進行性病変 (3)
5	第7章 炎症 (1)
6	第7章 炎症 (2)
7	第8章 腫瘍 (1)
8	第8章 腫瘍 (2)
9	第8章 腫瘍 (3)
10	第8章 腫瘍 (4)
11	第9章 免疫異常・アレルギー (1)
12	第9章 免疫異常・アレルギー (2)
13	第10章 先天性異常(1)
14	後期学習内容の復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

評価方法	小テスト評価(20%)、課題評価(20%)、定期試験評価(60%)を総合して評価
授業の進め方	・教科書の内容を中心にスライドで講義。 ・毎回の小テストと課題で理解を深める。
注意 (学生に望むこと)	・授業後は復習をしてください。 ・分からないところはそのままにせず、調べてください。
テキスト・参考書	『病理学概論』(東洋療法学校協会編)

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	柏倉 利一	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	臨床経穴論	曜日・時間	木曜日 17:40～

【授業概要・目標】 3年生の臨床に必要な経穴の情報を学び臨床の応用基礎知識の取得
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	年間スケジュール、五要穴について
2	五要穴・肺経、流注
3	五要穴・大腸経、流注
4	五要穴・胃経、流注
5	五要穴・脾経、流注
6	五要穴・心経、流注
7	五要穴・小腸経、流注
8	五要穴・膀胱経、流注
9	五要穴・腎経、流注
10	五要穴・心包経、流注
11	五要穴・三焦経、流注
12	五要穴・胆経、流注
13	五要穴、肝流注
14	任脈、流注
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	試験返却、質疑応答

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	督脈、流注
2	五行穴について
3	五行穴・肺経、大腸経
4	五行穴・胃経、脾経
5	五行穴・心経、小腸経
6	五行穴・膀胱経、腎経
7	五行穴・心包経、三焦経
8	五行穴・胆経、肝経
9	常用穴
10	常用穴
11	常用穴
12	常用穴
13	奇穴
14	奇穴
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	試験返却、質疑応答

評価方法	試験の評価だけでなく授業に対する意識も評価
授業の進め方	人数が少ないので質疑応答し必要な実技
注意 (学生に望むこと)	事前に予習を望む
テキスト・参考書	澤田流、長野式プリント

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	高橋 務	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	運動学	曜日・時間	木曜日 19:15～

【授業概要・目標】 解剖学的知識を基礎として、運動学・運動力学について基礎的知識を学習する。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション 運動学の基礎
2	運動について
3	剛体に働く力
4	関節角度と力の関係 滑車と輪軸
5	骨・関節の構造と機能①
6	骨・関節の構造と機能②
7	骨・関節の構造と機能③
8	背筋力の計測と変化①
9	背筋力の計測と変化②
10	立位体前屈の計測と変化①
11	立位体前屈の計測と変化②
12	立位体前屈の計測と変化③
13	立位体前屈の計測と変化(まとめ)
14	前期復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	前期評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	握力の計測と変化①
2	握力の計測と変化②
3	握力の計測と変化③
4	握力の計測と変化(まとめ)
5	上肢帯の関節
6	上肢の関節
7	下肢帯の関節
8	下肢の関節①
9	下肢の関節②
10	重心について
11	歩行について
12	筋硬度の計測と変化①
13	筋硬度の計測と変化②
14	後期復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	後期評価点検

評価方法	筆記試験、小テスト、出席(授業態度も含む)などの総合評価
授業の進め方	解剖学と併せて身体の基礎から始め、応用や実験へと移行する。
注意 (学生に望むこと)	解剖学的知識を把握し、運動学に活かせる様にする。
テキスト・参考書	特になし

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	上田 耕介	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	社会学(半期)	曜日・時間	前期) 金曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 社会学の基礎概念を学び、それを医療と関連づけて考えることにより、医療者の社会的責任を自覚する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	社会学の基礎概念(1)
2	社会学の基礎概念(2)
3	社会学の視点(1)
4	社会学の視点(2)
5	保健医療と社会学
6	健康とは何か
7	健康と社会格差
8	患者—医療者関係
9	専門職
10	ジェンダー、家族
11	福祉国家と保健医療(1)
12	福祉国家と保健医療(2)
13	福祉国家と保健医療(3)
14	現代医療の課題
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

評価方法	学期末に筆記試験を行い評価する。
授業の進め方	教科書に沿って講義を行う。
注意 (学生に望むこと)	普段から社会のことに興味を持って欲しい。
テキスト・参考書	『系統看護学講座 基礎分野 社会学』

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	田島 花野	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	漢文学(半期)	曜日・時間	後期) 金曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 基本的な漢文読解能力を身につける。『靈枢』等の古代中国医学書に関する基礎知識を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	ガイダンス(漢文学とは何か)
2	第一章・第二章『靈枢』
3	第三章 漢和辞典・漢字
4	第四章 文法
5	第五章 訓読
6	第六章 短文 その1
7	第六章 短文 その2
8	第六章 短文 その3
9	演習 その1
10	演習 その2
11	演習 その3
12	演習 その4
13	演習 その5
14	演習のまとめ、第七章
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	期末試験 授業中の発表・課題提出
授業の進め方	テキストを中心に進め、後半は演習形式で『靈枢』の読解を行う。
注意 (学生に望むこと)	積極的に授業に参加すること。
テキスト・参考書	浦山きか『漢文で読む『靈枢』～基礎から応用まで～改訂増補版』(アルテミシア、2018)

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	高橋 武彦	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	臨床医学総論	曜日・時間	金曜日 19:15～

【授業概要・目標】 身体構造や機能を理解したうえで、鍼灸臨床に必要な診察知識、技術を身に付ける。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション 第1章 診察の概要
2	第2章 診察の方法 (1)
3	第2章 診察の方法 (2)
4	第2章 診察の方法 (3)
5	第3章 生命徴候の診察
6	第4章 全身の診察 (1)
7	第4章 全身の診察 (2)
8	第4章 全身の診察 (3)
9	第4章 全身の診察 (4)
10	第5章 局所の診察 (1)
11	第5章 局所の診察 (2)
12	第5章 局所の診察 (3)
13	第5章 局所の診察 (4)
14	前期総合復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	第6章 神経系の診察 (1)
2	第6章 神経系の診察 (2)
3	第7章 運動機能検査 (1)
4	第7章 運動機能検査 (2)
5	第7章 運動機能検査 (3)
6	第8章 その他の診察
7	第9章 臨床検査法
8	第10章 おもな症状の診察法(1)
9	第10章 おもな症状の診察法(2)
10	第10章 おもな症状の診察法(3)
11	第10章 おもな症状の診察法(4)
12	第10章 おもな症状の診察法(5)
13	第10章 おもな症状の診察法(6)
14	後期総合復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	出席、定期試験、授業態度、小テスト、課題提出の総合判定とする。
授業の進め方	教科書を中心にポイントを確認する。解剖的な構造、機能を復習する。
注意 (学生に望むこと)	教科書の内容、語句を確認し、理解度を深めるための努力をする。
テキスト・参考書	臨床医学総論、その他解剖学、生理学等

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	黄 淵 熙	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	心理学	曜日・時間	土曜日 13:10～

【授業概要・目標】

心理学の主に基礎的分野に関する代表的な理論を中心とし、心理学全般における基礎知識の習得と理解を目的とする。前期では、知覚、記憶、知能、学習など認知心理学と発達心理学の領域を中心とする。後期では、心理学の応用分野に関する知識を習得することを目的とし、心の発達、社会のなかでの人間、適応への援助など社会心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学の領域を中心とする。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	心の発達(愛着、心の理論)
2	心理学とは。心理学の領域	2	発達障害
3	知覚	3	社会と人間1(対人認知)
4	記憶1(記憶の種類)	4	社会と人間2(対人魅力)
5	記憶2(記憶と老化)	5	社会と人間3(社会的影響)
6	学習1(古典的条件付け)	6	社会と人間4(態度)
7	学習2(動機づけ)	7	社会と人間5(集団と個人)
8	知能(遺伝か環境か)	8	社会と人間6(愛他的行動)
9	知能検査の概要	9	社会と人間7(攻撃行動)
10	知能検査の実際	10	パーソナリティとは
11	欲求	11	性格の測定
12	生涯発達理論	12	ストレスとサポート
13	認知発達	13	心理的援助
14	言語発達	14	アンガーマネジメント
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)	◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検	15	評価点検

評価方法	出席状況30%、試験70%
授業の進め方	授業内容の提示はスライドによる。スライドに提示されていない内容に関しては各自配布資料にメモを取るようにする。
注意 (学生に望むこと)	授業後に復習を行うこと
テキスト・参考書	適宜資料を配布する

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	亀井 啓	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	鍼灸応用実技 I	曜日・時間	土曜日 14:50～

【授業概要・目標】

鍼灸臨床の中で最も多く扱われている腰痛、坐骨神経痛、膝関節痛、頸上肢痛、五十肩を対象の中心とした問診法、及び実技習得の向上を目標とする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	頸上肢痛(理論)
2	頸上肢痛(理論)
3	頸上肢痛(実技)
4	頸上肢痛(実技)
5	頸上肢痛(確認)
6	五十肩(理論)
7	五十肩(理論)
8	五十肩(実技)
9	五十肩(実技)
10	五十肩(確認)
11	五十肩(確認)
12	シュミレーション課題によるPBL チュートリアル
13	実技テスト
14	前期総括
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	腰痛、坐骨神経痛(理論)
2	腰痛、坐骨神経痛(理論)
3	腰痛、坐骨神経痛(実技)
4	腰痛、坐骨神経痛(実技)
5	腰痛、坐骨神経痛(確認)
6	膝関節痛(理論)
7	膝関節痛(理論)
8	膝関節痛(実技)
9	膝関節痛(実技)
10	膝関節痛(確認)
11	膝関節痛(確認)
12	シュミレーション課題によるPBL チュートリアル
13	実技テスト
14	後期総括
15	評価点検

評価方法	前期、後期筆記試験、実技試験、小テスト(実力試験)、授業態度、日常態度全てに鑑みて判断する。
授業の進め方	テキストに基づいて双方向性の授業を心がける。後半時期にPBLチュートリアル方式にてシュミレーションができるように期待する。及び実技習得の向上を目標とする。
注意 (学生に望むこと)	日常における予習復習の励行。授業に関係なしに貪欲に様々な医療知識を吸収しようという態度。
テキスト・参考書	問診診察ハンドブック、整形外科テスト法

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	岡本 栄子	学科・年	鍼灸科第二部 2年
科目名	手技療法Ⅱ	曜日・時間	土曜日 16:30～

【授業概要・目標】

前期は教科書を基礎に指圧の技術・施術を身につける。
後期は全身施術ができ、臨床への応用ができることをめざします。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	指圧 基本手技
2	肩背部
3	肩背腰部
4	下肢部
5	下肢部
6	頭部 頸部
7	頸部 顔面
8	胸部 腹部
9	上肢部
10	上肢部
11	指圧で全身施術
12	指圧で全身施術
13	指圧で全身施術 実技テスト
14	指圧で全身施術 ペーパーテスト
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	全身施術
2	全身施術
3	頭痛 偏頭痛
4	顔面部 顔面麻痺
5	肩こり(あま指の五作用)
6	頸肩腕痛
7	肩関節痛(五十肩)
8	胸郭出口症候群
9	腰痛
10	坐骨神経痛
11	梨状筋症候群
12	膝関節痛
13	実技テスト
14	ペーパーテスト
15	評価点検

評価方法	前期は指圧を身につける 後期は治療をどのように進めるかをみます
授業の進め方	教科書を中心に進めます
注意 (学生に望むこと)	技術の向上、臨床では適切な治療ができるように
テキスト・参考書	『あんまマッサージ指圧実技(基礎編)』 『東洋医学臨床論(あんまマッサージ指圧編)』(医道の日本社)

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸科第二部2年
科目名	臨床実習①	曜日・時間	—・—

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業（Ⅰ）	1	臨床実習（15）
2	臨床実習前授業（Ⅱ）	2	臨床実習（16）
3	臨床実習（1）	3	臨床実習（17）
4	臨床実習（2）	4	臨床実習（18）
5	臨床実習（3）	5	臨床実習（19）
6	臨床実習（4）	6	臨床実習（20）
7	臨床実習（5）	7	臨床実習（21）
8	臨床実習（6）	8	臨床実習（22）・振り返り
9	臨床実習（7）	9	
10	臨床実習（8）	10	
11	臨床実習（9）	11	
12	臨床実習（10）	12	
13	臨床実習（11）	13	
14	臨床実習（12）	14	
◆	臨床実習（13）	◆	
15	臨床実習（14）	15	

評価の方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸科第二部2年
科目名	臨床実習②	曜日・時間	—・—

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業 (I)	1	臨床実習 (15)
2	臨床実習前授業 (II)	2	臨床実習 (16)
3	臨床実習 (1)	3	臨床実習 (17)
4	臨床実習 (2)	4	臨床実習 (18)
5	臨床実習 (3)	5	臨床実習 (19)
6	臨床実習 (4)	6	臨床実習 (20)
7	臨床実習 (5)	7	臨床実習 (21)
8	臨床実習 (6)	8	臨床実習 (22)・振り返り
9	臨床実習 (7)	9	
10	臨床実習 (8)	10	
11	臨床実習 (9)	11	
12	臨床実習 (10)	12	
13	臨床実習 (11)	13	
14	臨床実習 (12)	14	
◆	臨床実習 (13)	◆	
15	臨床実習 (14)	15	

評価の方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（鍼灸科第二部）

科目名	学年	授業時間数	教員名	実務経験	実務内容
鍼灸基礎実技Ⅰ	1年次	60	古川雄一郎	5年以上	鍼灸院での勤務経験をもち、現在も付 属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なってい る。
病理学概論	2年次	60	伊東太郎	5年以上	鍼灸院を開業した経験をもち、現在も 付属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なってい る。
臨床医学各論Ⅱ	3年次	60	国分俊繁	10年以上	鍼灸接骨院での勤務経験をもち、現在 も付属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なっ ている。
鍼灸理論Ⅰ	3年次	60	古川雄一郎	5年以上	鍼灸院での勤務経験をもち、現在も付 属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なってい る。
東洋医学応用概論	3年次	60	古川雄一郎	5年以上	鍼灸院での勤務経験をもち、現在も付 属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なってい る。
	合計時間数	300			